

平成 25 年 5 月 8 日

# 活動報告書

庭野平和財団 御中



セカンドハーベスト・ジャパン

渉外担当 黒澤 剛



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

御団体からの活動支援金を当団体のフードバンク活動にて活用させていただきました。誠に恐縮ではございますが、本報告書により報告にかえさせていただきます。

## 目次

- 1,当団体の活動の概要
- 2,支援金の使用用途と目的
- 3,活動の方法と実績
- 4,活動の成果
- 5,今後の課題

## 1、活動の目的

セカンドハーベスト・ジャパンでは、2012年度には3152tの食糧品を取り扱いました。関東での定期的な配送は約320団体へ供給致しました。

そして当団体の活動は、大きく分けて4つに分類されます。1、フードバンク活動2、パントリー事業（緊急食料支援）3、スープキッチン（炊き出し）4、政策提言。1は、基幹活動で福祉施設および団体を中心に食品を配布する。トラックでの配送が中心になり、個人への配送に関しては2のパントリー事業で宅急便にて提供している。3は毎週上野公園で約400名分の炊き出しを提供している。4はフードバンク活動の広報を中心に関係省庁との係わりをもち、普及と啓蒙活動を行っています。

## 2,支援金の使用用途と目的

このうち本助成金は1および2において活用させていただきました。今回は添付資料にある会員9団体に対し各4万円のお米券を配布した。

また、セカンドハーベスト・ジャパンとして頂いた残4万円を、人件費、雑費などとして使用しました。

## 3,活動の方法と実績

年末に向けての活動をされる生活困窮者支援をしている団体に対しては、提供人数、希望する食品、希望する量を事前に確認し、こちらからの配送と先方からの引取りを併用した。11月頃からニーズの高いアルファ米やお米を確保して提供に備えた。また、パントリーに関しては、提携団体からの事前の申込を基本としながら、本支援金により通常では資金面により提供できていない母子家庭を中心に食品を提供いたしました。クリスマスと年越しを見越して、主食になるお米、パスタはもちろんスープの缶詰め、お菓子などの嗜好品もあわせて提供した。

## 4,活動の成果

支援先からのいただいたコメントは以下です。

- ① フードバンクの食品を利用することができ、他の活動について資金を廻すことができた。その分、毛布や下着などを買って提供することができた。

- ② 食品を買って提供する予算が見込めなかった為、充実した食品の供給ができた。
- ③ 缶詰のスープなどは、簡単に調理もできて、身も心も温かくなりました。

以下は、パントリー事業において提供した方からの手紙です。  
(一部抜粋)

#### 5,今後の課題

路上生活者などの支援団体へ届ける食品の種類を増やせるように、チルド品や冷凍食品を提供したいが、保管状態や、温度管理などを検討しなければならない。それは衛生面の充実、室内での調理と配食が行われることによって、提供者と受益者の安心につなげていきたい。

最後に本助成金により、越年を厳しい環境のなか迎えられた方々の一助になることができました。継続的な支援はもちろんですが、前出のコメントにあったように、人がつながれる、気持ちの伝わる活動にして行きたいと存じます。